

## 「エスコスさんの思い出」

交流学科2年 寶川里奈

今回の研修で最も印象に残っているのは、エスコラスティカさんという80歳近くの女性が経営するレストラン、Tun Goru Snack Barを訪れたことだ。チャモロ料理を食べながら、エスコラスティカさんが実際に経験した、日本統治時代の日本人とサイパンの人との交流の話を聞いた。

彼女は太平洋戦争後のサイパンで初の女性議員になった実力者だ。そして日本統治時代の教育を反映して、今でも流暢な日本語を話す。エスコラスティカさんは、私たちに終始笑顔で接してくれた。日本の学校に通って、優等生だったこと、日本人の友人のことなどを話してくれた。日本の歌（はとポッポ、赤い靴履いた女の子、あおげば尊し、等）も楽しそうに披露してくれた。サイパンの海とヤシの木の刺繍が入ったお手製の布ポーチまで 私たち一人一人にプレゼントしてくれた。しかし、エスコラスティカさんが日本統治と、当時の日本人に対してどう感じたのか、とうとう本音は聞けなかった。

日本に帰って新学期が始まって、ゼミの授業でサイパン戦体験者が語る戦前の記録集（英語）を読んだ。エスコラスティカさんの語りもあって、そこには、「日本人は我々サイパン人に対し本当にひどいことをした」「米軍が私たちを救ってくれた」とあった。これはアメリカ人読者を想定してアメリカで出版された本なので、アメリカ人を悪くは言えなかったのだろう、とゼミ生と話し合った。

しかし本音は分らない。私はもう一度、サイパンに行き、エスコラスティカさんのレストランを訪ねて こんどこそ日本人に対する本心を聞いてみたい。





エスコスおばあちゃんお手製の色違いの刺繍入りポーチをいただいた。

